

Ikiiki
MaebaShi
Jin



楽しむために勝ちにこだわる



全国大会で準優勝
小鮎 秀幸さん・58歳
敷島町

6月に静岡県藤枝市で開催された全国シニアサッカー大会で、本市で活動するサッカーチームを準優勝に導いた。「優勝しか考えていなかった。で、作戦通りの試合もありましたし、決勝まで進めてよかったです」

中学、高校と全国大会に出場した経験を生かしながら、FC前橋50の監督として8年間活躍した。

「メンバーの意見をまとめるのが大変なときもあります。でも、思ったとおりに試合が進むと嬉しいよね。戦術や配置を考えるのは、なんだか将棋を指している感覚に似ていると思うな」

メンバーは50歳以上。チームづくりでは、年齢に合ったサッカーを目指した。

「若い時と同じようにはいかない。パスの精度を高めて人よりもボールが動くパスサッカーを心掛けました」

だが、最もこだわるのは試合に勝つことだ。

「楽しくサッカーするためには勝たないと。6月の大会で、大変な強豪チームと当たった時も、負けないサッカーを心掛け、PK戦で勝利しました」

大会後は監督を勇退。今後は主な活動の舞台を還暦のチームに移す。常に勝利を意識している小鮎さん。シニアの星として輝き続けてほしい。



夜空に輝く前橋花火



夏の夜空を彩る前橋花火大会を8月8日、利根川大渡橋周辺で開催。1万5,000発の花火が観客を魅了しました。ことしは打ち上げエリアが広がり花火がよりワイドに。季節の移り変わりをイメージしたグランドフィナーレの「前橋の四季」は、心に残る美しさでした。



どろんこになって楽しむ

8月23日に前橋総合運動公園拡張予定地でどろんこラグビー祭を開催しました。泥地でのラグビーや宝探しなどのアトラクションに、年齢や性別を問わず参加者みんながエキサイト。終了後はバーベキューに舌鼓を打ちながら、参加者同士の交流を深めました。



みんなでころとんを応援

8月6日に、ゆるキャラグランプリ2015出陣式を行いました。昨年優勝したぐんまちゃんや山本市長、ローズクィーンがころとんを激励しました。第四保育所の子どもたちもころとん体操で応援。「10位以内を目指してがんばるころ！」と気合いを入れました。

赤城の恵



vol. 26



前橋名産「だるま茄子辛子」

空っ風の吹く赤城山麓の前橋で、生産者が妥協を許さず、手間を惜しまず作った赤城の恵ブランドの認証品。今回は前橋名産「だるま茄子辛子」を紹介します。

■貴重な小なすを使用

使用するのは、国内生産では大変希少価値の高い小なす。田口町の農場で栽培したものを100軒使用し、漬け込みから製造まで市内で行っています。

■形と食感を楽しめる

だるま茄子の名前は、小なすの形が群馬でお馴染みのだるまに似ていることに由来。その小なすを代表的な「かす漬け」に漬け込み、丁寧に仕上げられています。かわいらしい

■お土産にぴったりの逸品

だるま茄子辛子は群馬の優良県産品、全国推奨観光土産品として認定を受けています。「わっぱ入」のパッケージは見た目もおしゃれなのでお土産にぴったり。前橋物産館広瀬川のほか、サーブエリアや県内の観光地などでも販売しています。

■健康・栄養

なすの皮のナスニンはアントシアニン系色素でポリフェノールの一種。抗酸化作用があり、血栓防止や目の疲労を改善する効果があるとも言われています。

■生産者からのメッセージ

生産から加工まで、全て市内で作ることにこだわっています。前橋の風土は野菜作りに大変適しています。今後も野菜の生産者の顔が見えるような漬物を作っていきたいです。ぜひ、お召し上がりください。

問い合わせは
新進物産 ☎027-289-6595